

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」や「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」という項目では、肯定割合が市や県の平均を上回っており、宿題の定着が図られている。今後も、継続できるよう児童の実態に合った課題を出していく。
○「先生は、学習のことについて褒めてくれる」の肯定割合は100%だった。今後も、児童のよさや頑張りを認め、学習への意欲につなげていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合が、市や県の平均を上回った。一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす活動を取り入れていくとともに、引き続き「ハッピーな～べ～号」や帰りの会の「今日のキラリ」など、よさを伝えていく活動を継続する。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定割合が、市や県の平均を下回った。今の学習がどのように将来につながるか見通しをもたせるために、キャリア教育の中や総合的な学習の時間を通して、意識させたい。

●「新聞を読んでいる」の頻度が、市や県の平均を下回った。新聞を読むことで、読解力や語彙力の向上、創造力が広がるなど様々な力を鍛えることができる。教科のねらいに応じて、新聞を活用したり自主学習で取り組んでいる児童の活用法を取り上げたりしながら触れる機会を増やしていく。